

技術情報

J A全農やまぐち

TAC 営農推進課 (083-988-0681)

平成25年7月17日 発行

第 172 号

斑点米カメムシ類の注意報発令

7月16日付で、**水稲の斑点米カメムシ類の注意報が、県内全域に発令されました。**

つきましては、下記及び病害虫防除所発表の「発生予察注意報第1号(写)」を参考に、被害防止に万全が期されるようご指導をお願いします。

記

1 注意報の予報内容

- (1) **発生地域 県内全域**
- (2) **発生時期 出穂期以降**
- (3) **発生程度 「多」**

2 防除対策

(1) 耕種的防除

- ・ 畦畔、休耕田等の草刈りを発生予察注意報第1号(写)により実施する。

(2) 薬剤防除

ア 防除時期

- ・ 粉剤、水和剤では、8月上旬までに出穂する圃場では、穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。
- ・ 8月中旬以降に出穂する圃場では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 粒剤で防除を行う場合は、出穂期に施用する。

イ 防除薬剤

- ・ 本田殺虫剤及び休耕田殺虫剤は裏面表のとおり

(3) 留意事項

- ア 畦畔等の草刈りは斑点米の低減に効果が高いが、水稲の出穂直前や出穂後の草刈りは水稲への斑点米カメムシ類の移動を助長するので留意する。
- イ アカスジカスミカメは出穂後早い時期に玄米の頂部を吸汁し、籾摺り後も被害粒として残ることが多い。これまでアカスジカスミカメによる被害がみられた圃場は、穂揃期の適期防除を逸しないよう注意する。
- ウ 本年は梅雨明けが早いことに加え、長期予報による今後の気温は高く降水は少ない傾向で、斑点米カメムシ類の発生と水田への侵入が助長される条件である。

本田用殺虫剤

(平成25年7月16日現在、山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準掲載)

系統	登録農薬コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
【粉剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ヒレスロイト	3A	MR、ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	-
ヒレスロイト	3A	トレボン粉剤DL(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	速効性だが、浸透移行性はなく、薬剤が虫体にかからないと効果がある。
フェルピラゾール	2B	キラップ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内	-
ヒレスロイト、ネオニコチノイド	3A 4A	トレボンスター粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内、ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
フェルピラゾール、ヒレスロイト	2B 3A	キラップジョーカー粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内、シラフルオフェン2回以内	-
ヒレスロイト、ネオニコチノイド	3A 14	パダントレボン粉剤DL (普)(B,Bs)	4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内、カルタップ6回以内	-

【液剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 (普)(A)	2000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10 (普)(A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ダントツフロアブル(普)(A)	5000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ダントツ水溶剤(普)(A)	4000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ヒレスロイト	3A	トレボン乳剤(普)(B)	1000~2000倍、60~150リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	-
フェルピラゾール	2B	キラップフロアブル(普)(A)	2000倍、60~200リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内	-
有機リン	1B	スミチオン乳剤(普)(B)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	MEP3回以内(但し、本田では2回以内)	-
ヒレスロイト、ネオニコチノイド	3A 4A	トレボンスターフロアブル (普)(B,A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内、ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び圃場施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド、IGR	4A 16	アブロードスタークルゾル (普)(A,B)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	-
フェルピラゾール、ヒレスロイト	2B 3A	キラップジョーカーフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~200リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内、シラフルオフェン2回以内	-

【粒剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル粒剤 アルバリン粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	スタークル豆つぶ(普)(A)	250~500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粒剤(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	-
ネオニコチノイド	4A	ベストガード粒剤(普)(A)	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	ニテンピラム4回以内	-
フェルピラゾール	2B	キラップ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	エチプロール2回以内	大型種カラムシ類には効果が劣る。

休耕田殺虫剤

系統	登録農薬コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	-	4回以内	散布	クロチアニジン4回以内	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダテソウ等の多年生雑草が優占している休耕田で適用
		ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a					
		スタークル粉剤DL(普)(A)	3kg/10a					
		スタークル顆粒水溶剤(普)(A)	2000倍、60~150リットル/10a					
		スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10(普)(A)	1000倍、60~150リットル/10a					
ヒレスロイト	3A	MR、ジョーカー粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	-	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	
		MR、ジョーカーEW(普)(A)	2000倍、60~150リットル/10a					
		トレボン乳剤(普)(B)	2000倍、60~150リットル/10a					
有機リン	1B	スミチオン乳剤(普)(B)	1000倍、60~150リットル/10a	-	4回以内	散布	MEP4回以内	
フェルピラゾール	2B	キラップ粉剤DL(普)(A)	4kg/10a	-	2回以内	散布	エチプロール2回以内	
		キラップフロアブル(普)(A)	2000倍、60~200リットル/10a					

平成25年度農作物病虫害発生予察注意報第1号

平成25年7月16日
山 口 県

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ等）

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 出穂期以降

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 7月8日～10日の雑草地等における20回すくい取り調査では、斑点米カメムシ類のすくい取り虫数が116頭で平成（65頭）に比べ多く、特にクモヘリカメムシが多かった（図1）。
- (2) 県内4か所の予察灯における6月1日～7月10日の斑点米カメムシ類の誘殺数は、632頭で平成（563頭）に比べやや多い。
特にアカスジカスミカメの誘殺数は、7月に入り急増した（図2）。

5 防除方法

- (1) 畦畔、休耕田等の草刈り
カメムシ類が増えるのを避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以降もイネ科雑草（エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等）の穂が出ないように管理する。
- (2) 薬剤防除（粉剤、水和剤等を散布する場合）
 - ア 8月上旬までに出穂するほ場では、穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。
 - イ 8月中旬以降に出穂するほ場では、穂揃期の防除を徹底する。
 - ウ 薬剤を散布した後もほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は、さらに7日後に追加防除を実施する。
 - エ 防除薬剤は平成25年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂直前及びその後の草刈りは、カメムシ類の水稻への移動を促し加害を助長するので避ける。
- (2) 休耕田の雑草が繁殖源となる場合が多いので、休耕田の除草を徹底する。
- (3) 周囲よりも出穂の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のほ場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。
- (4) カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- (6) 粒剤で防除を行う場合は、出穂期に施用する。
- (7) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

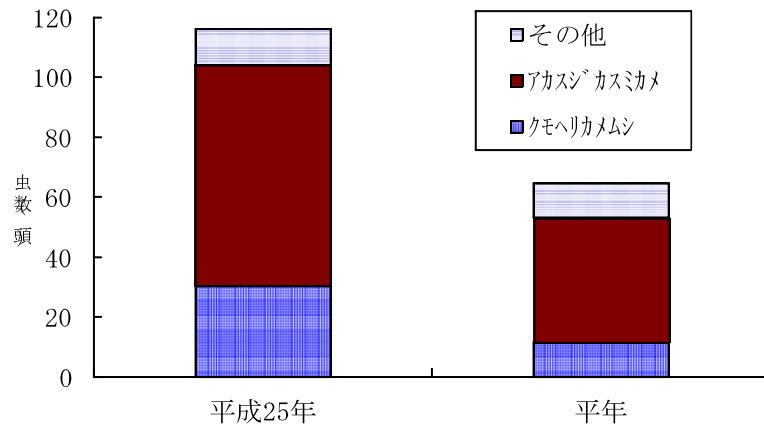


図1 雑草地でのカメムシ類の発生量 (7月8日～10日のすくい取り調査)

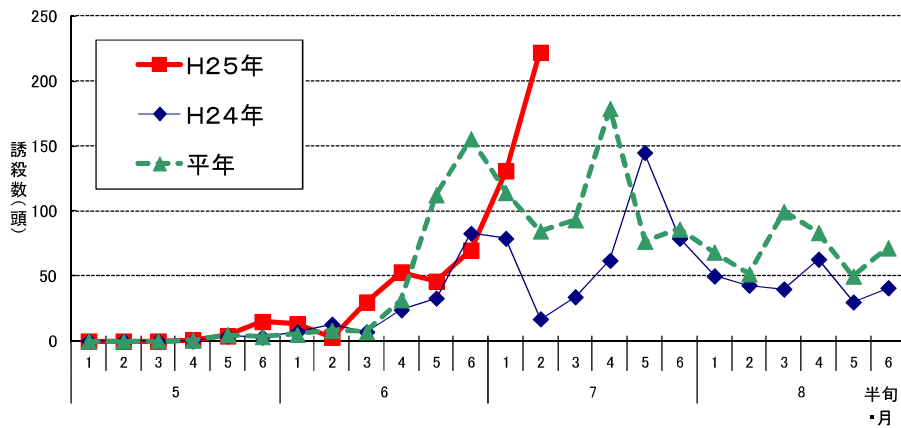


図2 県内4か所の予察灯におけるアカスジカスミカメ誘殺数の推移



写真1 クモヘリカメムシ成虫 (体長 15～17mm)



写真2 クモヘリカメムシによる被害粒 (斑点米)



写真3 アカスジカスミカメ成虫 (体長 5～6mm)



写真4 アカスジカスミカメによる被害粒 (斑点米)